

700万年に及ぶ人類の遙かな旅路

時空旅人

1

2018 Vol.41

定価780円

奇数月26日発売

想像力をかき立てる
写真や絵図が満載!

京都大学霊長類研究所
松沢哲郎先生と学ぶ
チンパンジーとヒトの心
真相究明!
邪馬台国は
どこにあったのか?

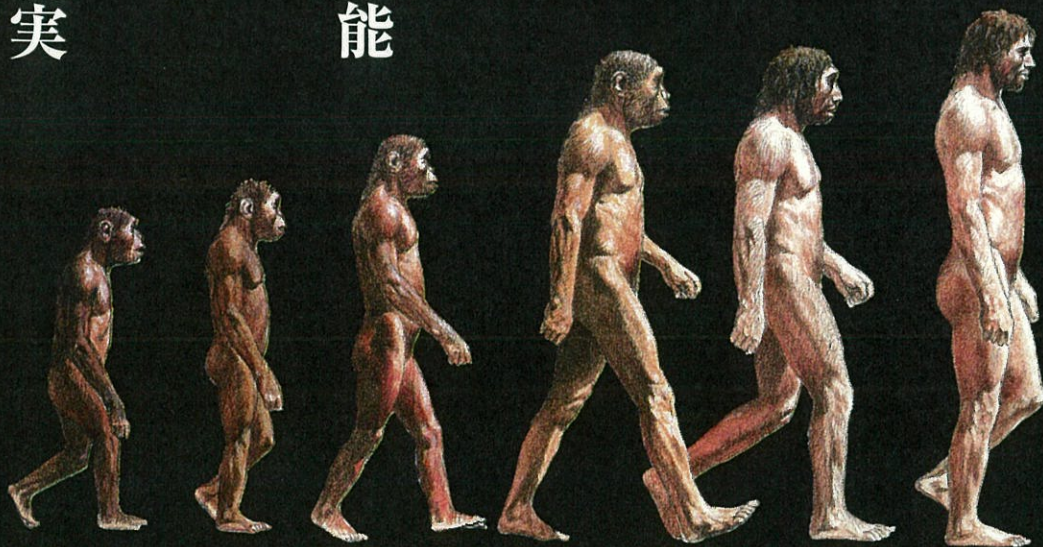
私たち人間は神か? 悪魔か? ホモ・サピエンス史



国立科学博物館で紐解く
人類進化の
歴史

History of Homo sapiens

- 人類と文学
- 人類と食
- 人類と神
- 人類と貨幣
- 人類と愛
- 人類と科学
- 人類と人工知能
- 人類と音楽
- 人類と映画
- 人類と仮想現実



貨幣の発明は 本当に人類を幸福にしたのか？



貨幣

人間が生み出した最大のフィクション

貨幣(お金)の3つの役割

① モノを交換する機能

黒田先生が貨幣の最も大事な機能と考えているのが交換する機能。貨幣が介在することにより、遠い所にいる人とも匿名性をもって交換することができる。売買の自由がない国では交換という選択肢が用意されていない。

② モノの価値を測る尺度

通貨が登場する以前の古代オリエントでは、物の価値は金銀塊の重量に換算されていた。だが量って使う金銀塊は手軽に扱うことができなかつたため、金属貨幣が登場するとすぐにその座を占めるようになった。

③ 価値を蓄えていく手段

多くの人が貨幣を使いその価値を共有するようになること、それをより多く持っている人が様々な面で得をするようになる。つまり貨幣を貯めることが、価値を蓄えていくことに繋がるといえることになるのだ。

お金の形は地域や時代で様々に変化



お金は本来、多元的で個性的である 古代中国の刀貨

春秋戦国時代の齊、燕、越などで用いられた刀の形状をした青銅製の貨幣。刀銭とも呼ばれた。形状の違いから尖首刀、背刀、明刀、円首刀の4種類に分けることができる。大きくて重量があるものもあり、現代の貨幣のように携帯には向いていない。

Legacy Images/アフロ

お金と似た概念は古代バビロニアにすでに存在した。人が集まり、他の人と何かを交換したい。そう考えた時、貨幣というツールが生み出された。やがてそれは人と人との繋がりを円滑にするために不可欠なものとして広がっていった。

取材協力 / 黒田明伸(東京大学東洋文化研究所・東アジア第二研究部門教授)

案内人

くろだあきのぶ
黒田明伸



1958年生まれ。世界貨幣史、中国経済史。京都大学文学部卒業。大阪教育大学教育学部講師、名古屋大学情報文化学部助教授などを経て現在、東京大学東洋文化研究所教授。著書に『貨幣システムの世界史“非対称性”をよむ』(岩波書店)など。

交換の4つの属性

物を交換したり価値を測ったりする概念が貨幣というもので表すことができるようになった時、グローバルな経済活動が始まったといえる。

隔地

遠くの人との取引の場合、例えば食べ物などを貨幣の代わりに使うことはできない。なぜならば傷んで価値がなくなるからだ。価値を共有することができる金貨などが最も便利だと思われる。

(例)
クレジットカード、
為替手形、小切手など

持っている人の信用で物の交換や売買が可能になるもの。同じ場所に集まっている人でなくても使うことができるという遠隔性は金貨や銀貨と変わらない。また、額が大きくなってもたくさんの現金を持ち歩かなくても済む利点がある。その反面、債務超過に陥ってしまうリスクを常に持ち合わせていることも頭に入れておきたい。

(例)
金貨、銀貨など

相手の顔が見えなくても使うことができ、とても匿名性が高い。しかも価値を共有しやすいためどんな人でも使い勝手がよく、人間の欲望にとっても適っている。そのため世界的に流通するようになった。ひとつの場所に大勢の人が集まっていなくても使用できる。金や銀といった金属製でなくても、流通させることができる。

匿名

硬貨に代表されるお金には名前は書かれていない。そのため誰もが自由に使うことができる。それだけに持っている硬貨を人に貸したりした場合、全てが戻って来ることは少ない。

自由だけれど摩擦が多い

多重債務・超過に陥る可能性がある

指名

手形や小切手などは、誰のものであったかがすぐわかる。人と人の信用で成り立っているものだ。だが実際にお金が目の前にあるわけではないから、多重債務を負ってしまう危険がある。

(例)
帳簿など

もともと帳簿とは、金銭や物品の出納など、事務上の必要事項を記入しておくための帳面のこと。顔がわかり信用のある相手との、1対1の取引を継続的に行なう場合などは、帳簿上でのやりとりで済ますこともできる。金銭の計算といった面倒事を省くことができ便利。ごく限られた範囲でしか機能しないのがデメリット。

(例)
タバコ、
銅貨、シェルマネーなど

大勢の人が同じ場所に集まり、そこでだけでも通用する共通の何かがあれば、それが貨幣の代わりに果たしてくれる。食品やタバコなどでもいいが、遠隔地では貨幣として使うことはできない。銅貨や鉄貨も金貨や銀貨と同じように使うことができるが、重量があるため遠隔地までたくさん持って行くのにはあまり向いていない。

局地

大勢の人が一度に同じ場所に集まっているのならば、そこだけで通用する何かを通貨として用いることができる。ある町の中だけで通用するクーポンなどもこれに当たるといえる。

貨幣とは形ではなく人の繋がりという意味がある

「貨幣とは結局、人間と人間の間関係だと思えます。自分の持っているものを何かと交換したいと考える人間が多数集まったならば、それ自体が貨幣だと考えてもいいでしょう。例えば第二次世界大戦後、経済が破綻したドイツでは国が発行した紙幣を誰も信用しませんでした。占領軍が配っていた煙草のマールボロが通貨の代わりに果たしていたのです」

この場合、マールボロという煙草に意味があるのでなく、それと何かを交換したいと考えている人が大勢集まっていることに意味がある、と黒田先生は続ける。つまりマールボロを使って何かと交換したいと思っている人がたくさん集まっていれば、それが貨幣となるわけだ。「自分の持っている物や造った物を相手の何かと交渉して交換する。その権利を有している物であれば、それがすでに貨幣だと私は考えているのです。それこそが、貨幣が持っている大事な要素ですね」

逆に考えると交換する自由がない

貨幣の前提は、
交換したい人間が
存在していることである

世界最古の鑄造貨幣 リュディアのエレクトロン貨

紀元前7世紀頃に、トルコ西部に存在したリュディア王国が発行した世界最古の金貨。ライオンの紋章や重量が刻印されている。金銀の合金エレクトラム(琥珀金)を使用。



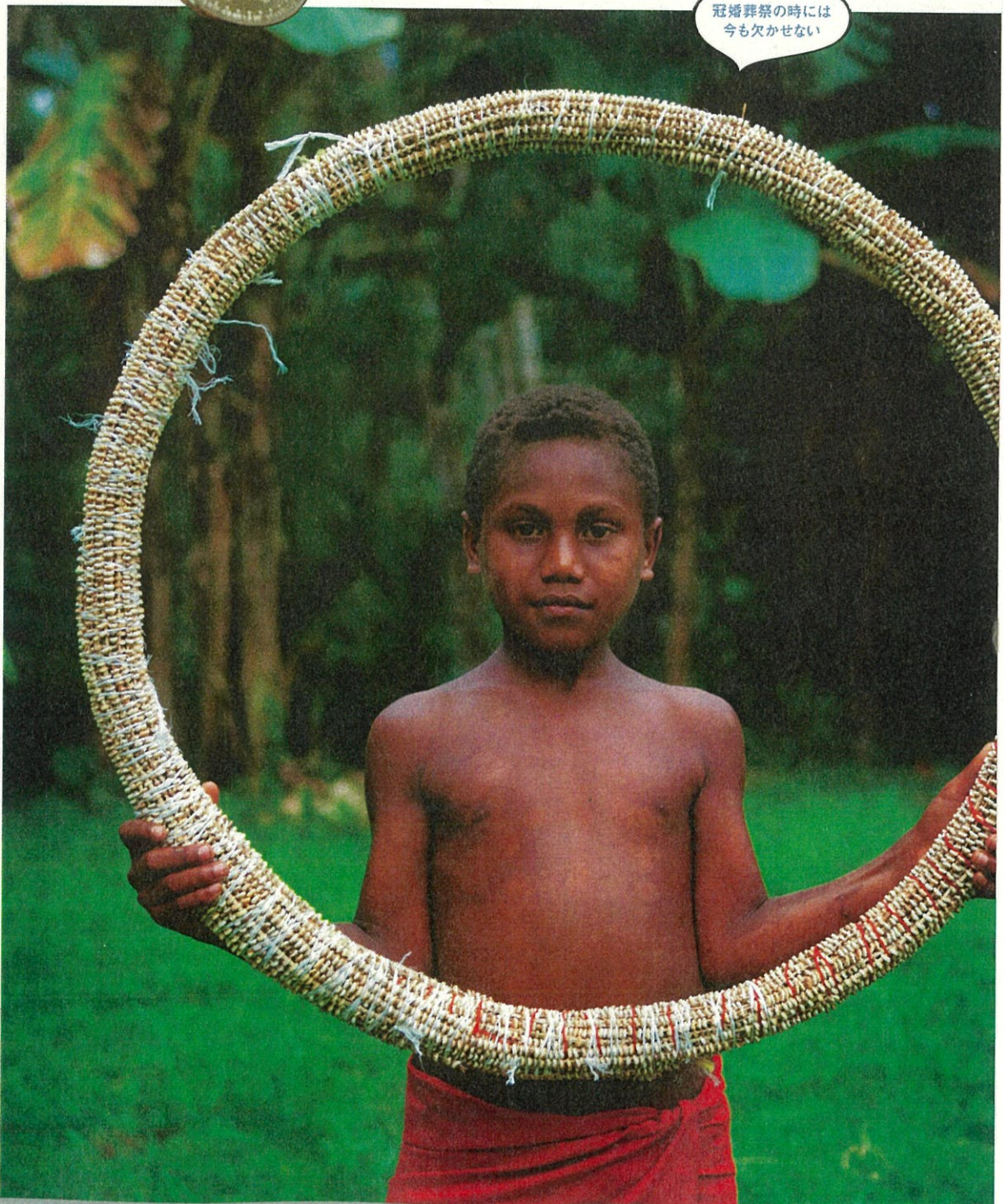
akg-images/アフロ

拡大する仮想通貨 ビットコイン (イメージ)

ビットコインとはインターネット上で流通する仮想通貨のひとつ。金融当局の規制を受けることがなく、コンピュータネットワーク(P2P)を通じて相手と直接取引を行なうことができる。



冠婚葬祭の時には
今も欠かせない



国には、貨幣は必要とされていないのである。人々を支配する政府や団体などが全て取り仕切り、収獲したものを全てを集集、分配してしまうからだ。交換するのは人間がある程度いて、しかも「自分たちが交換することを選べる」という自由があることが大前提なのである。

現状の問題は、通貨の違いによって
交換能力の格差が大きすぎることに

これも貨幣!? パプアニューギニアの シェルマネー

パプアニューギニアのトーライ族という部族で今も使われているシェルマネー。ナッサ貝という小さな貝に穴をあけ、木の蔓を通し紐状にしたもので、価値を決めるのは蔓の長さだという。

Alamy/アフロ

のいずれかひとつに用いられていれば、貨幣と見なすことができる。

これらの起源は同じではない。価値尺度としての貨幣は物々交換を起源としている。価値の貯蔵は食料や家畜、身分を表す財宝など、財や権力の蓄積を起源とする。交換のための貨幣は、財を入手するための間接的交換を起源としているのだ。

強大な国が持つ通貨が世界を席卷し流通を広げた

紀元前2000年頃、バビロニアではすでに現代の金融システムと同じような考え方が、実践されていたという。それは穀物の種や家畜の貸し付けであった。穀物の種は収穫された作物として返してもらおう。家畜の場合は子供が生まれれば頭数が増えて戻ってくる。という具合に、通貨が登場する以前から、貸した見返りをきっちり手にしていたのだ。

そして世界最古の金属貨幣と言われるエレクトロン貨が、紀元前7世紀頃に現在のトルコ領アナトリア半島に存在したリュディアという国家で誕生した。リュディアは東西交通の要衝だったことから、物流が盛んであった。そのため古代オリエント世界では、通貨の代わりに使われていた金銀塊よりも簡単に扱えるものとして、リュディアで多く産出された金を使った硬貨（コイン）が考案されたのだと考えられている。「ただ西洋人はエレクトロン貨が一

ユーロに見る単一通貨の弊害とは？

イギリスのEU脱退というニュースは、世界に衝撃を与えた。理想を掲げてスタートしたEUだが、実は「最悪崩壊するのでは」という話も出ている。その最大要因となっているのがユーロの存在だ。多くのEU加盟国はユーロという共通の通貨で経済はつながっている。ところが財政に関しては各国でバラバラなのだ。そのため金持ちの国と貧乏な国の格差がとて大きくなっている。典型的な例がドイツとギリシャ。もともとの税収規模が違うにもかかわらず同じ通貨を使っていれば、税収の少ない国は当然破綻する。日本を例にすると、東京と地方で税収が違うのに統一通貨でも双方がやっていけるのは、収入を一旦まとめてから各県に地方交付税として分配しているから、地方は破綻を免れている。同じようにドイツがギリシャに税収の一部を交付すれば解決するのだが、ドイツ国民が許すはずがない。各国が独自通貨を発行していれば、自国通貨の価値を下げ、輸出や観光産業を盛り上げることもできるが、ユーロではそれが不可能なのだ。

主なユーロ圏の15歳以上の失業者と失業率(2015年)

国(地域)	失業者数	失業率(%)
 アイルランド	20万4000人	9.4
 イタリア	303万3000人	11.9
 オーストリア	25万2000人	5.7
 オランダ	61万4000人	6.9
 ギリシャ	119万7000人	24.9
 スペイン	505万6000人	22.1
 スロバキア	31万4000人	11.5
 ドイツ	195万人	4.6
 フィンランド	25万2000人	9.4
 フランス	305万4000人	10.4
 ベルギー	42万2000人	8.5
 ポルトガル	64万7000人	12.4
 ルクセンブルク	1万8000人	6.7
 日本(参考)	220万人	3.3

参考・出典◎総務省統計局「世界の統計 2017」

番古いと主張したりしますが、絶対に正しいとは言えません。それは金属貨幣でない通貨でないとはいえないからです。お金に関する漢字には貝の字が使われているでしょう。間違いなく古代中国では貝貨から始まっていると思われず。それが貨幣として流通していなかったとは、誰も言えないと思います」

紀元前6世紀末になると、ギリシアの都市国家は独自の硬貨を製造するようになっていった。それはその国家を象徴するもののひとつに数えられたのである。さらに王たちの肖像が刻まれるようになると、彼らの権威を表すものにもなった。これは強大な国家を建設したローマにも受け継がれたのである。

やがてローマ帝国は大量の硬貨を

製造。それを戦費に充てて周辺諸国への侵略を繰り返した。そうして獲得していった新たな領土から貴金属を略奪したり、交易を広げたりして多くの富を獲得したのである。

「ローマと同じように13世紀のモンゴルは、アジアからヨーロッパにまたがる大帝国を築き上げました。その版図内では無理やり銀が流通するように仕向けたのです。その後モンゴル帝国が減ると、銀の流通は一度つぶれてしまいます。しかし東アジアからヨーロッパまで銀が流通し、それで物が売買できるということは人々に記憶されたのです」

こうした強い貨幣を手に入れた勢力の登場により、貨幣というフィクションが、世界中にあまねく浸透していったのである。

HUMANITY COLUMN

国家や民族を超えて人々を結びつける貨幣というフィクション

人間が他の動物と決定的に違うのは、政治システムや身分といった様々なフィクションを生み出したことだ。なかでも貨幣は世界を結びつけるうえで、とても大きな役割を果たしたフィクションといえるだろう。現代では世界のどの国に行っても、その国の貨幣を出せばレストランで食べ物を得ることができる。もっといえば、国際決済ができるクレジットカードがあれば、その国の貨幣そのものも必要ない。貨幣による交易は、多数の文化や民族、国を結びつけた。それは老若男女も国籍も、



信奉する宗教も関係ない。貨幣はグローバル化に最も成功を取ったフィクションであり、裏を返せば貨幣という誰もが信じるフィクションがあったから、世界がグローバル化したと言える。ここで重要となるのは貨幣そのものが持つ価値ではなく、人々が抱いている貨幣への信用を、より多くの人と共有することなのである。